

事例 1

グループによるリレーブックトーク

1 育成を目指す言語能力

本単元は、目的や場に応じて言葉遣いなど表現を工夫して話すという言語能力を育成するために計画したものである。「国語表現Ⅰ」の学習指導要領の指導事項「ウ 目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して話したり書いたりすること。」を指導の中心に取り上げ、「本を紹介するときに、紹介する内容を効果的に伝える工夫をしたり、相手を意識して話し方を工夫したりしている。」という評価規準を中心にして評価する。言語活動例の「ウ 相手や目的に応じて、案内、紹介、連絡などのための話をしたり文章を書いたりすること。」を参考に、「グループでリレーブックトークをする」という言語活動を通して、冒頭で述べた能力を育成する。

本来のブックトークは、本の紹介を一人で行うものであるが、この実践では、グループごとに設定した一つのテーマに基づいて、各メンバーが一冊の本の紹介をリレーするという形態を試みた。その理由は次の三点である。

- ・限られた指導時間の中で全ての生徒を学習活動に参加させるため。
- ・紹介する本やその内容、紹介の仕方などをグループで話し合うことで、より効果的な表現に練り上げさせるため。
- ・指導の対象となる生徒の実態から、あるテーマに沿った本を一人で五、六冊紹介することは困難と思われたため。

また、この実践では、本を紹介するだけではなく、他者の発表を聞いて、紹介された本を読みたいと思った度合いを五段階で評価させた。これは、「話すこと」だけでなく、「聞くこと」の大切さも生徒に意識させるためである。

これらの点を踏まえて、本単元を設定し、学校図書館を会場に学習活動を展開した。さらに、ブックトークの後に作った本の紹介カード(POP)を、ブックトークコーナーを特設して本と共に展示し、単元終了後も学校図書館の利用の促進を図った。

2 学習活動の概要

(1) 単元名 グループによるリレーブックトーク

(2) 単元の目標

- ①目的や場に応じた表現を工夫して話そうとする態度を身に付ける。 (関心・意欲・態度)
- ②目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりする。 (話す・聞く能力)
- ③目的や場に応じた話し方や言葉遣いを理解する。 (知識・理解)

(3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	知識・理解
①目的や場に応じて、表現を工夫して効果的に話したり、的確に聞き取ったりしようとしている。	①本を紹介するときに、紹介する内容を効果的に伝える工夫をしたり、相手を意識して話し方を工夫したりしている。 ②聞くときに、話題、話し手の意図、強調点などをとらえ、的確に聞き取っている。	①目的や場に応じた話し方や言葉遣いを理解している。

(4) 指導と評価の計画（4時間）

時間	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1 5 2	ブックトークの手法を知る (1) 読書に関するアンケートに答え、自身の読書傾向を確認する。 (2) 資料1 を読んでブックトークの手法を理解する。 (3) テーマごとにグループ(2～4人)を作る。 ブックトークのシナリオを作る (1) グループでテーマについて考え、発想を広げる。 (2) 紹介する本、分担の順序を決める。 (3) それぞれのシナリオを作る。	○テーマが重複しないようにする。 ○テーマに基づき、導入・つながり・まとめの流れを工夫させる。	話す・聞く能力①、知識・理解① (ワークシート 資料2 の記述の確認)
3	ブックトークをする (1) グループでブックトークをする。 1 グループにつき10～20分。 (2) 聞き手は紹介された本・発表の仕方についてメモを取り、相互評価する。	○シナリオを見ないで発表させる。 ○自分が読みたいと思った度合いと、発表の仕方の善し悪しについて評価させる。	話す・聞く能力①②、知識・理解① (ワークシート 資料3 の記述の確認、発表の観察、発表内容の分析)
4	本の紹介の仕方について考え、紹介カード(POP)を作る (1) 前時のメモを基に学習を振り返り、効果的な発表の仕方について考える。 (2) 本の紹介カード(POP)を作る。 (3) 学校図書館に展示コーナーを作って、本の紹介カード(POP)を展示する。	○自分のメモを見ながら考え、意見を交換させる。	知識・理解① (ワークシート 資料3 の記述の確認)

※関心・意欲・態度については単元全体を通して評価する。

※この実践は「国語表現Ⅰ」選択者16名を対象に実施した。

3 評価の例

本単元の「話すこと」の評価規準は、「本を紹介するときに、紹介する内容を効果的に伝える工夫をしたり、相手を意識して話し方を工夫したりしている。」ことである。生徒のブックトークシナリオ**資料2**や発表例の**資料4**にあるように、目的に応じた言葉遣いがなされている。紙面では実際の音声による発表は再現できないが、どのグループも効果的な表現を工夫して発表していた。

また、「聞くことの」評価規準である、「聞くときに、話題、話し手の意図、強調点などをとらえ、的確に聞き取っている。」ことに関しても、**資料3**の例にあるように、発表を聞いた気付

きが記されており、「聞くこと」によって「話すこと」の能力の高まりが期待される結果となっている。

なお、**資料3**の他の気付きとして、次のようなものがあった。

- ・聞き手が紹介された本の続きが気になって、ついつい読みたいと思うような終わり方をする
とよいと思った。
- ・自分たちも名場面の紹介をすればよかった。
- ・つかみをおもしろくするとよかった。
- ・内容の紹介だけでなく、読んだ感想を聞きたかった。
- ・本を紹介する場合、あらすじや内容よりも、紹介者がどう感じたかということや、内容の紹介を途中で止めて、興味を持たせるなどの工夫が大切なことに気付いた。

4 成果と課題

(1) 成果

2007年4月に公表された、「平成17年度高等学校教育課程実施状況調査 教科・科目別分析と改善点」では、「読書活動の状況と問題点」として次のような分析及び指摘がなされている。

前回調査では、生徒の本への興味が読書行動へと結び付いていない実態を改善するため「個々の生徒に応じた取組」や「『読んでみたい』と思わせる指導や環境づくり」が提言された。

今回の教師質問紙調査結果をみると、「読書を習慣化させるための特別な取組を行っていますか」において肯定的な回答が8.5ポイント増加(今回調査42.4%、前回調査33.9%)しており、取組に一定の改善がみられる。しかし、教師による学校図書館を活用した授業に関しては、前回調査でも18.2%にとどまっていた肯定的な回答が更に5.1ポイント減少しており、教師質問紙と生徒質問紙のクロス集計をみると、教師の取組が生徒の読書活動や図書館利用にほとんど影響を与えていないという結果が出ているなど課題も多い。

単なる「本を読みなさい」という押し付けの指導でなく、興味を持っているが読み始められない生徒への読書のきっかけづくり、また適切な内容の本が選べない生徒への読書の幅を広げ深める指導などができているのか、そしてそもそも本を手にとろうとしない生徒に読書への興味を喚起できるような構えが教師の側にあるのかなど、それぞれの生徒の実態に応じた具体的な指導の中身の再検討が求められる。

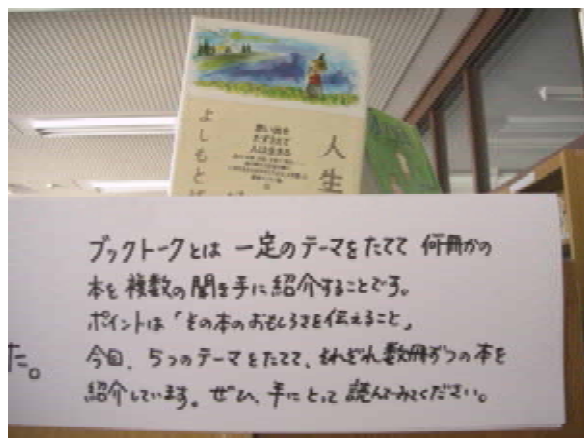
これらの点を踏まえると、本実践の成果として次のようなことが挙げられる。

ブックトークをグループ活動としたことで、発表の準備のためにグループ内で自然に本に関する情報交換が行われた。また、発表活動だけでなく、単元全体を通して「話すこと・聞くこと」の学習が効果的に展開された。ブックトークのシナリオを作る過程で、生徒は本を読んだ感動を生き生きと伝え合ったり共感し合ったりしていた。そして、取り上げた本のよさを伝えたいという気持ちを、ブックトークに効果的につなげることができた。また、この取組では、自分が関心を持ったテーマに関連する本を一人数冊紹介すればよいとため、生徒の読書量の個人差をカバーしつつ、学習の達成感をもたせることができた。

また、生徒は聞き手としても話し手である友人の発表を評価することで、本を口頭で紹介する際の留意点を自ずと学んでいた。

なお、この単元は、学校図書館を会場にして実施したため、身近にある本を利用して学習活動がスムーズに展開されただけでなく、その後も学校図書館の活用がなされた。ブックトークの後

に作った本の紹介カード(POP)を、ブックトークで紹介された本の紹介コーナーで、しばらくの間、本と一緒に展示した。これらの取組により、学習終了後も、全校生徒の目に触れる形で、本の紹介が継続された。学校図書館の活用という点でも効果的な指導であった。



(2) 課題

指導の対象となる生徒すべてが読書に親しんでいるわけではなく、読書量が決して多いとは言えない生徒もいる。そのような生徒が本の紹介をするには、新たに本を読まなければならない、あるテーマに沿った本を探すための読書の時間の確保が難しかったようだ。事前にテーマを設定した上で、長期休業などを挟んで実施すると、より効果的な指導が展開できそうである。そのためには、単元の年間指導計画への位置付けの工夫も必要であろう。

また、ブックトークは読書のきっかけ作りとして有効な手だてであるが、生徒が取り上げた本は、その内容が似通っていた。さまざまな種類の小説や、小説以外のジャンルの本にも目を向け

られるような指導の工夫も必要である。そのためには、読書センターとして学校図書館を活用するだけではなく、学習情報センターとしても利用するという、指導者側の視点の転換や指導の工夫も大切である。

使用教科書

- ・『改訂版 国語表現Ⅰ』京都書房

参考URL

- ・図書館教育資料集 <http://suguru.apple.ac/toshosiryoul.htm>

資料1

グループでブックトークをしよう

○ブックトークとは

一つのテーマをたてて、一定時間内に何冊かの本を複数の聞き手に紹介することです。その目的は、「その本の内容を教えること」ではなく、「その本のおもしろさを伝えること」、「聞き手にその本を読みたいという気持ちを起こさせること」です。

読み聞かせや朗読とは違って、本を最初から順に読んでいくということはありません。ブックトークはあらかじめテーマを決め、紹介すべき本をさまざまに取り混ぜて選び、紹介の仕方を考えておきます。今回は、一人で一冊の本を紹介するシナリオを準備し、グループのメンバーでリレー式に紹介します。

○やってみよう

1 テーマを決めます

- ・聞き手の興味・関心、季節や行事などを考慮します。
たとえば……泣ける本 幸せになれる本 感動できる本 ほんわかした気持ちになれる本
青春ストーリー 背筋が凍るミステリー 切ない恋愛本

2 本を選びます

- ・5～6冊を目安にします。（今回は一人一冊）
- ・語り手の好きな本を入れると語りも生き生きとします。
- ・いろいろな分野から、内容に幅をもたせて。
- ・語り手が既に読んでいる本で、聞き手が利用できる本。

3 紹介の順番や方法を決めます

- ・全体を通して一つのストーリー性を持たせるようにします。
- ・紹介の中心に据える本を決めて、山場をつくります。
- ・書名の羅列にならないように、「つなぎ」を工夫しましょう。
- ・次の①～⑥を参考に、それぞれの本について何をどう紹介するか決めておきましょう。
 - ①著者について（自分との関わり、自分が興味を感じている点）
 - ②本の題名について（題名の由来・秘密）
 - ③その本の主張（特色・特徴・おもしろいところ）
 - ④思わず引きつけられるところ（おもしろいエピソード・興味深い記述）
 - ⑤自分とその本の関わり
 - ⑥予想される聞き手とその本の関わり
- ・朗読等もおりにまぜていきます。
- ・しめくくりを考えましょう。

4 ブックトークをします

- ・聞き手が親しみやすい表現で。
- ・気持ちを込めた自然な表現で。
- ・聞き手の様子をよく見ながら。

5 ブックトークが終わったら

- ・「本の紹介カード」を作り、展示コーナーで、広くみんなにその本を紹介しましょう。

リレーブックトークのシナリオを作ろう

生徒の作品例

テーマ

切ないラブストーリー

紹介する本	紹介するポイントのメモ	担当者
はじめ みなさんにとって理想の恋愛ってどんなものですか？ ドラマのようにロマンチックな恋愛ですか？ それともセレブな男性に尽くしてもらうような恋愛ですか？ 人によってさまざまだと思いますが、現実の恋愛は、そんなにうまくいってばかりじゃないですよねぇ。ねぇ。忘れちゃいけないのが、「恋愛に涙はつきもの」だってこと。そこで私達は、ここに、涙なしでは終われない、七冊の切ないラブストーリーを集めてみました。言っておきますが、この中には、ノンフィクション、つまり実話もあるんです。いつあなたの身に同じことが起こるか分かりませんからね～。よ～く聞いてくださいね。		A
「天使の卵」 村上由佳 「天使の梯子」 村山由佳	では、まずは三角関係、姉妹同士で恋人を奪い合う相当ドロドロなこの一冊。 〔説明〕 そして、この登場人物が成長した後を描いているのがこの本です。 〔説明〕	B
「すべての雲は銀の…」 村山由佳 「心の鍵」 めぐみ	ちょっと待ってください！！まだまだそんなの甘いです！ここにもっと切なく、かつドロドロした物語を用意しましたよ～。それがこの二冊。 〔説明〕 こちらは、さらにドロドロした話 〔説明〕	C
「あなたへ…」 河崎愛美 「あおぞら」 星野夏	では、こんなドロドロしたものばかりでは疲れてしまいますよね。ってことで、ここでちょっとひとやすみ。私のおすすめしたいのは、この心温まる一冊。 〔説明〕 そしてこちらは、涙なしでは読めません！ 〔説明〕	A
「恋空」 美嘉	では最後にみなさんもよ～く知っているでしょう。携帯小説が大ヒットしたので出版されたこの本！ 〔説明〕	D
おわり さて、私たちは切ないラブストーリーをテーマに集めてみたのですが、みなさんは幸せな恋愛をしましょうね。		D

リレーブックトークを聞いて

年 組 番 名前

テーマ：

「読みたい度」を五つ星で表そう

本のタイトル	読みたい度★	内容メモ	気付いたこと
	☆☆☆☆☆		
	☆☆☆☆☆		
	☆☆☆☆☆		
	☆☆☆☆☆		
	☆☆☆☆☆		
	☆☆☆☆☆		
	☆☆☆☆☆		

リレーブックトークを聞いて

生徒の記述例

年 組 番 名前

テーマ： 切ないラブストーリー

「読みたい度」を五つ星で表そう

本のタイトル	読みたい度★	内容メモ	気付いたこと
「天使の卵」	★★★★☆	三角関係	・疑問で投げかけている。 ・楽しそうに話してくれるのがいい。
「天使の梯子」	★★★☆☆	「天使の卵」の10年後の本	
「すべての雲は銀の…」	★★★★☆	兄に恋人をとられて長野へ	・結末を言わず、 気になるところで止める。
「心の鍵」	★★★★☆	ぼろぼろになりながらも支えられる	
「あなたへ…」	★★★★★	15歳の女の子の手紙	・本の説明を途中で おわす。→読みたい度、アップ！
「あおぞら」	★★★★★	傷ついた心を一人の男の子に救われる話	
「恋空」	★★★☆☆	ケータイ小説	

資料 2 で紹介したシナリオとは別に、実際に発表されたものから、二例を部分的に紹介する。なお、これは、生徒の発表を録音テープから文字に起こしたものである。

感動する本

みなさんは最近感動しましたか。毎日、学校が終わったら家に帰るということの繰り返しだったりしませんか。だったら、私たちが今から紹介する八冊の本を読んでみてください。

「空への手紙」佐藤律子

この本は、本当に大切な人が死んでしまった時に、その人に対する感謝の気持ちや怒りや謝罪の気持ちなどを天国に届けたいと思って書いたものです。天国の人に届くはずがないと分かっているが、ここに書いて伝えようとしています。どうして感動するかっていうと、亡くなった人に書いた手紙だからっていうのではなくて、私も本当に心から思える大切な人だって分かるからです。ここに書いてあること一つ一つに心を動かされるし、大切な人を心から思うことができると思います。みなさんに大切な人はいますか？

「世界の中心で、愛をさけぶ」片山恭一

もう一つは「世界の中心で、愛をさけぶ」です。みなさんも読んだり、映画とか、連続ドラマとかを見たりしたかと思います。みんなが考えたことはそれぞれ違うと思います。この本も大切な人を思った本で、主人公の朔太郎は亜紀に恋をします。でも亜紀は死んでしまいます。亜紀の言葉や朔太郎の言葉が心に響いて人生のことやこれからのことなど、命について考えられると思います。この本に心が動かされると思います。

「いま、会いにゆきます」市川拓司

この本を読むと、大切な人に今すぐ会いに行きたくなります。人は、失って初めて大切に気付くことが多いと思いますが、そんな経験をしなくても、この本を読めばその気持ちが分かると思います。この本のポイントはその失った大切な人がよみがえるので、別れを二度体験しなきゃならないことです。

「ビューティフルライフ」北川悦吏子

これは彼女が、余命三か月っていわれて、お互いにそのことを知っていながら、それでも彼が彼女を支え続けていく、純粋な愛です。

「ユウキ 世界で8番目のたたかいに勝った男の物語」岸川悦子

大切な人へのメッセージが書いてある本です。主人公が過去世界でも七例しかない病気になってしまい、治療法もなく、普通こういう難病ものだと主人公が苦しみながらも周りの人に助けられて頑張っていくというパターンが多いのですが、この本では、主人公のユウキさんが、逆に自分から病気に向かっていって、周りの人を勇気付けるといって、そこに感動できると思います。去年の「24時間テレビ」でも取り上げられました。

「バッテリー」あさのあつこ

主人公の原田巧と、同級生の永倉豪という少年が野球を通して絆を深めていく話です。この本を読むと、野球を知らなくても友達との絆をもう一度考えさせられたり、友達を信じることや信じられることの大切さや難しさを考えさせられたりして感動します。

「ラスト・イニング」あさのあつこ

「ラスト・イニング」は「バッテリー」の別冊というか番外編で、本編の登場人物の中の瑞垣というキャラクターの視点からの話なので、また違ったおもしろさが味わえます。「バッテリー」は今年映画化されて、本を読んでから映画を観るとストーリーもよく分かっておもしろいと思うので、映画の前にぜひ読んでみてください。

「一瞬の風になれ」佐藤多佳子

この本は陸上部の男の子の三年間を書いた本です。「イチニツイテ」「ヨーイ」「ドン」の三部作で、主な登場人物は高校から陸上を始めた新二と天才の連。連は天才なんだけどあまりやる気がなくて、それをチームの人が支えたりしながら、あまり強くない陸上部がどんどん強くなっていくんです。私も陸上部なんですけど、チームでやっていくっていうのがよくて、チームの大切さっていうのがすごくよく分かるんです。すごく詳しく書いてあるので、陸上競技をやっていない人でも、楽しめる本です。走りたいなと思ったら、すごく気持ちのいい本なので、ちょっと長いんですけど読んでみてください。

「3年B組金八先生 星の落ちた夜」小山内美江子

みんな知ってると思いますが、上戸彩がでてたときのなんですけど、このクラスも個性がすごく強くて、虐待に合っている子とか、性同一性障害の子とかいるんですけど、最初は周りもそういう子のこととかを理解してあげることが出来なくて、差別しちゃったりするんですけど、卒業する頃には理解して、その子のことを応援してあげるっていうクラスの絆ができるんです。

やっぱり、大切な人や愛する人への思いとか、友達やクラスの絆とか、そういう本を読むと感動できるって思うんで、読んでみてください。

切ないラブストーリー

「天使の卵」 村上由佳

主人公の歩太という男の人に夏姫という彼女がいるんですね、歩太のお父さんは病気で入院してて、その病院のお医者さんが実は彼女のお姉さんだったんです。歩太はそのお医者さんに恋をしてしまうんです。で、最初はお姉さんだって知らなくてそのお医者さんをどんどん好きになってっちゃって、三角関係が、どんどん発展していつてしまうんです。

「天使の梯子」 村山由佳

その10年後を書いたのが「天使の梯子」。高校時代に憧れていた担任教師の夏姫に再会した慎一。二人は急速に接近していくんですが、慎一は夏姫が見せる淋しげな表情が気になっています。やがて、夏姫には、恋人でも、友人でもない、特別な存在の男性がいると知る慎一。夏姫の心は10年前の“あの時”から、止まったままだったのです。続きは読んでみてください。

「すべての雲は銀の…」 村山由佳

この本の主人公の男の人が自分の兄に恋人をとられてしまって傷心のあまり、長野県に働きに行ってしまうんですけど、自分の心の傷をいやしてもらう感じなんですけど、その中で地元の人との、ふれあいもありつつ、自分の兄とも再会している話して、立ち直って、また自分の彼女に会いに行くって話です。

「心の鍵」 めぐみ

次は「心の鍵」って携帯小説なんですけど、この話は結構ドロドロした話で、主人公の女の人が風俗の面接に行くってところから始まって、それまでつきあった彼氏と別れて、また新しい人とつきあいます。その人とも別れて今度はすごく束縛する男の人とつきあうことになります。いろいろありながらも、最終的には、そんな自分を支えていたのは自分の家族や友人だったって気付いていくっていう話です。

「あなたへ」 河崎愛美

びっくりなことにこれを書いたのは私達よりも若い十五歳の女の子です。これは、文化祭で会った男の子に恋した女の子がその思いをつづった手紙を本にしたもので、とくに私が感動したのは最後の一言なんですけど、それが何かはぜひ読んでみてください。

「あおぞら」 星野夏

こちらは涙なしには読めない「あおぞら」という本です。これは女の子が信じていた男の先輩にレイプされちゃって、そういうのでどんどん傷ついていくんですけど、一人の男の子が救ってくれるって話なんです。その男の子がどうにかなっちゃうんですけど、それは読んでからのお楽しみです。

「恋空」 美嘉

みんなも知ってるように携帯小説が大ヒットしたので出版された本です。

その他のリレーブックトークで取り上げられた本

幸せな気持ちになれる本

- 「さくらえび」 さくらももこ
- 「人生の旅をゆく」 よしもとばなな
- 「ハネムーン」 吉本ばなな
- 「夏の庭 The friends」 湯本香樹実

泣ける本

- 「ハッピーバースデー」 青木和雄
- 「優しい心が一番大切だよ ひとり娘をいじめで亡くして」 小森美登里
- 「永遠の友だち」 サリー・ワーナー
- 「星になったチロ イヌの天文台長」 藤井旭

人生について考えさせられる本

- 「自分らしく生きる」 小沢牧子
- 「スタンド・バイ・ユー」 山下英三郎
- 「塩狩峠」 三浦綾子
- 「天国からはじまる物語」 ガブリエル・セヴィン
- 「頭にやさしい雑学読本」 竹内均
- 「なまけものの思想」 安岡章太郎

